

われらが街の
誘致企業

株式会社センチュリーテクノコア

- ▼本社 株式会社センチュリーテクノコア（東京都中央区日本橋）
 ▼所在地 清野袋3丁目8の1
 ▼従業員数 279人（男性50人、女性229人）
 ▼操業開始 1990年4月
 ▼主な業務 注文紳士服・婦人服の製造販売
 ▼会社概要（沿革）

当社は、既製品と異なり自分好みにカスタマイズできる一方で、フルオーダーよりも手頃な「イージーオーダースーツ」を製造しています。全国の百貨店や量販店、専門店で販売網があり、商品を自社工場で生産し、自動裁断機を導入することなどにより1週間の納期で製造するシステムを確立しています。

2018年8月に新棟を完成させ、工場規模が拡大したことから、作業効率を高めるためにAIを搭載した自動搬送機を導入しました。



▲自動搬送機が人に代わって別工程に荷物を運ぶことで作業効率が向上



降りるまで待ちます

▲リフトの昇降も自動で行う。先に乗っている自動搬送機が降りるのを待ってから、次の搬送機が乗ることも可能。



先に降ります

続いて乗ります

働く人からひと言！



▲米村浩介さん

私は上衣の「仕上げプレス・検査」を担当しています。学生の頃から物作りに興味があり、自分でスーツを作ってみたいと思い入社しました。

センチュリーグループは生産から販売まで一貫して行っている業界でも数少ない企業体で、デジタルプリントなど最先端技術も取り入れています。

現在、親睦会「HC会」会長を務めており、多くの社員が参加できるようなイベントの企画・運営に取り組んでいます。これからも向上心を持ち、自分自身のスキルアップと会社発展のために頑張りたいと思います。



市内には、アパレル産業に関する企業が集積し、地域雇用を支えています。今回は、縫製の現場に人工知能（AI）やデータ活用などの最新デジタル技術を取り入れ、職人の技術とテクノロジーが融合した生産体制による生産性の向上に取り組む企業を紹介します。

■問い合わせ先 産業育成課（☎ 32-8106）



▲工場外観



▲工場では多くの女性が活躍

人が「運ぶ」無駄を減らし、電子回路を埋め込んだタグをつけて各工程を進んでいくことで生産工程の『見える化』を実現し、「探す」作業を減らすなど最新のデジタル技術を活用したスマートファクトリー化を推し進めています。

また、女性が働きやすい職場環境の整備に力を入れており、産前産後休暇や育児休暇後に退職せず復帰する従業員がほとんどで、たくさんの女性社員が活躍しています。

博物館のお宝拝見

第10回 平尾魯仙「唐人図屏風」

平尾魯仙（ひらおろせん、1808〈文化5〉年～1880〈明治13〉年）は紺屋町に生まれ、国学者や絵師として活躍した人物です。

本作品は2つの屏風（びょうぶ）が1組になっています。右側の屏風の女性は仙女・西王母（せいおうぼ）で、漢代の皇帝が長寿を祈った時に不老長寿の桃を持って降臨したという伝説から、西王母の桃は長寿の象徴だとされます。本作品では西王母の右に立つ木に桃がたわわに実り、童子が



市立博物館が所蔵するお宝を、毎月紹介します。
 ■問い合わせ先 市立博物館（☎ 35-0700）

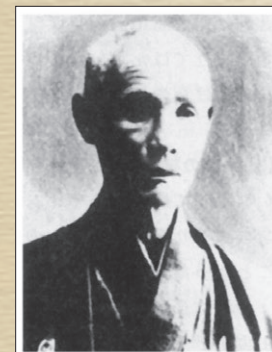
彼女に向かって桃を捧げ持つ様子が描かれています。左側の屏風の男性は七福神でおなじみの福祿寿（ふくろくじゅ）です。福祿寿は幸福・封祿（財産）・長寿をつかさどる道教の神仙で、鶴を連れ、杖を持った頭の長い老人の姿で描かれます。本作品では傍らに桃を置いた姿で描かれており、中国では鶴・鹿・桃といったおめでたいモチーフと共に描かれることも一般的でした。西王母と福祿寿がセットで描かれた本作品は、長寿の縁起を担いだ作品だと言えます。博物館で開催中の企画展3では、右側の屏風の西王母図を展示しています。



弘前の偉人たち

第10回 リングの神様

外崎嘉七（1859-1924）



嘉七（かしち）は1859（安政6）年、中津軽郡清水村樹木（今の弘前市）に住む外崎長八（ちょうはち）の三男として生まれました。生まれつき気性の激しい、負けん気の強い子どもでした。

嘉七は、岩木山麓にあった農牧社に6年勤めた後、リング栽培に没頭しました。病害虫などによる生産の危機を乗り越えるために袋かけと薬かけを広めたほか、低い樹形の推進、古くなった枝の更新や独特の形に改良を加えた剪定鋏（せんていばさみ）の共同開発など新技術を広め、リング産業の発展に尽くしました。また、嘉七は「青森県のリングを発展させるには、

市教育委員会が発刊している「新・弘前人物志」から、弘前が生んだ偉人たちを毎月紹介します。皆さんが知らなかった偉人と、出会えるかもしれません。

■問い合わせ先 教育センター（☎ 26-4803）

敵をつくることだ」と抱負を述べ、長野県に指導に行きました。リングの栽培も互いに競争しあう相手があつてこそ、研究がなされて進歩発展するという意味です。青森県のリング栽培に大きな足跡を残し「リングの神様」と呼ばれた嘉七は、多くの仲間に見取られながら65歳で生涯を終えました。市内樹木2丁目にある公園内には、嘉七の功績をたたえる碑が立っています。

「弘前人物志」は、弘前が生んだ傑出した人物を中学生の皆さんに知ってもらいたいという目的で、1982（昭和57）年に初めて発刊されました。紹介した人物をもっと詳しく知りたい人は、「新・弘前人物志」をぜひご一読ください。

